

**今日のトピック** 2017年豪州経済および豪ドルの見通し  
**資源セクターの復調で堅調な推移となる見通し**

**ポイント1** 16年は2%台前半の成長  
個人消費など内需が堅調

■ 2016年の豪州の実質GDP成長率は前年比2.4%程度と、前年並みの成長になると見られます。中国経済の減速、資源価格の下落による資源セクターの不振を、個人消費や住宅投資の拡大で吸収しました。

**ポイント2** 17年も堅調に推移しよう  
物価は緩やかに上昇

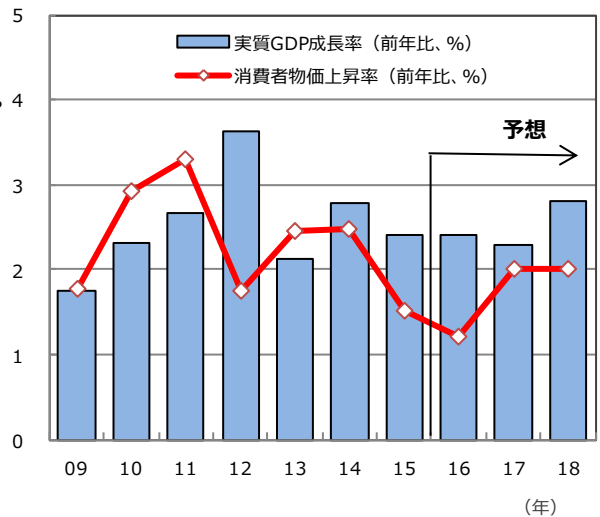
■ これまでの利下げ効果や労働市場の回復等から家計消費、住宅投資といった非資源セクターは、2017年も堅調に推移すると予想されます。年後半には、資源セクターによる設備投資の調整も一巡すると見られ、景気の拡大ペースは緩やかに高まると考えられます。17年の成長率は+2.3%程度が予想されます。

■ 賃金の底入れや、原油価格の下げ止まり等により、消費者物価の上昇率は、緩やかに高まる見通しです。17年後半には、豪州準備銀行（RBA）の目標値である+2%～+3%のレンジに到達すると予想されます。RBAは、少なくとも17年いっぱい政策金利を現行の1.50%で据え置き見通しです。

**今後の展開** 資源価格が豪ドルを支え

■ 豪ドルの対円相場は、資源価格の持ち直しにより今年半ば辺りから上昇基調に転換しました。今後も、豪州経済の堅調な見通しに加え、資源価格の持ち直し、さらには日豪の金融政策の方向性の違い（日銀は緩和スタンスを維持、RBAは中立スタンス）を反映して、豪ドルの対円相場は底堅く推移すると考えられます。

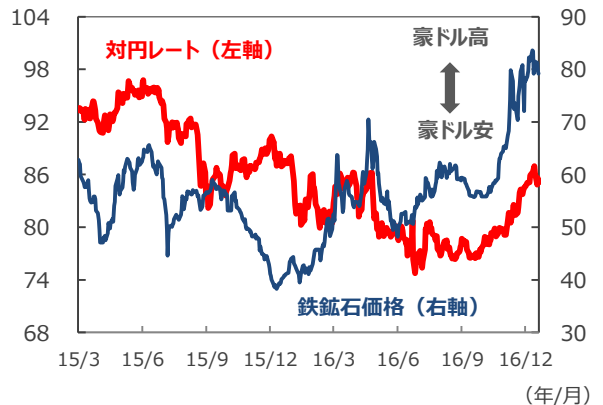
(%) 実質GDP成長率と消費者物価上昇率



(注) データ期間は2009年～2018年。但し、2016年以降は三井住友アセットマネジメントの予測値。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(円/豪ドル) 豪ドルの対円レートと鉄鉱石価格 (米ドル/トン)



(注) データ期間は2015年3月2日～2016年12月21日

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ここもチェック!** 2016年12月7日 豪州のGDP成長率 (2016年7-9月期)  
2016年12月6日 豪州の金融政策は前月に続き据え置き (2016年12月)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。